

第15回会議で出された主な意見

【北九州市の目指す教育の姿について】

(子どもの未来をひらく教育改革会議報告書に対する意見)

第2章 子どもの未来をひらく教育の理念

【目指す子ども像(北九州っ子)】

「目指す子ども像～北九州っ子」については、「一人ひとりの可能性が引き出され、夢や希望をもつ子ども」などの3つの文の後に「自立と共生」と出ているが、どちらがメインかわかりにくいので、はっきりさせたほうがいい。

「自立と共生」については、「自分の力でやり遂げ、自立する力をもつ子ども」を括弧して「自立」、「思いやりの心もち、行動できる子ども」を括弧して「共生」とし、「自立と共生」は上にあるものとして、「一人ひとりの可能性が引き出され、夢や希望をもつ子ども」という解釈でいいとすれば、「自立」「共生」を括弧して中に入れるほうが分かりやすいのではないか。

6ページの囲みのところは、「自立と共生」を上にもってきて、「平成17年の教育の北九州方式検討会議の理念」と括弧書きで入れ、カラーの矢印などで示して、今回の「目指す子ども像」というふうにもってこられたら分かりやすいのではないか。

6ページの「目指す子ども像～北九州っ子」については、過去の会議との流れというが、一貫性を説明書きしているので、外してしまってもいいのではないかと思う。

「自立と共生」という言葉が外されると、3つの文言が一人ひとりの能力、生きる力というところで少し強調されると思う。丸3つだけだと、なかなか自立できない子、助けが必要とされている子、その子らも共に生きていけるような社会という解釈では少しきついと思うので、形の上での整理をしたほうがいいと思う。

12ページの内容図で「目指す子ども像～北九州っ子～」と書いて、その文言として、一言で言えば「自立と共生」と捉えたいので、「自立と共生」は外さないほうがいい。

6ページの「目指す子ども像～北九州っ子」については、それぞれに意味があったと、そういう解釈をするならば、このままでいいのではないかと思う。

【家庭、学校、地域への期待と連携のあり方】

12ページの内容図について、「家庭、学校、地域」の囲みで文章が書かれているが、本文では、すべて「家庭は、」という主語の文章形式になっているので、内容図も資料2も「学校は、家庭は、地域は、」という形で統一したらわかりやすいのではないか。

【取組みを進めるにあたって～「教育日本一」の考え方～】

「教育日本一」の考え方として、数値で教育日本一を測らないという整理の仕方は、非常によいと思う。競争が子どもに自信を持たせないという意味では、数値で日本一、北九州の子どもの尺度を測らないという記載は、ぜひ活かしてもらいたい。

第3章 子どもの未来をひらく教育～6つの視点ごとの方向性～

【「確かな学力と体力」に関する視点】

17 ページについては、文言整理等をしてもらった結果が見えている。ここであまり細かいことを書いてしまうと画一的な流れになってくる。そこを大胆に現場の取組みに任せていくという方向で文言整理してもらったことに関しては、よかったと思う。

19 ページの「病気を防ぐ習慣づくり」について、アレルギー疾患が抜けている。ぜんそくや食物アレルギーも、下手をすると死亡事故が生じる恐れがあるので、子どもの感染症の次ぐらいにアレルギー疾患を入れてもらいたい。

また、「子どもの感染症、アレルギー疾患、生活習慣病、運動器障害（スポーツによる障害など）の次に、「など」を入れてもらいたい。

【「心の育ちの推進（青少年の健全育成を含む）」に関する視点】

30 ページの【考えられる取組み】で「～地域との連携のもとでの道徳教育への民間人の参画」とあるが、「地域人材の活用」など、別の表現にしたほうがいいと思う。

【「特別支援教育の充実」に関する視点】

33 ページの、(2)「目指す方向性」の【家庭教育を充実・支援するための施策のあり方】「～保護者への理解啓発を促進する」については、「目指す方向性」の表現にあわせて、「～すべての保護者への理解啓発を促進する」としたほうがいいと思う。

【その他の視点】

並び方の問題について、「はじめに」で「学校、家庭、地域」と記載されているが、他のところは「家庭、学校、地域」となっているので、そろえたほうがいいと思う。

また、年齢的な並びを考慮するという意味でも、「幼稚園、保育所」の記載については、その順序を（幼稚園より）保育所を先にしたほうがいいのではないかと思う。

視点6の特別支援教育の中で、「障害」の「害」の字の表現については、この表現（漢字）で記載するのか、「がい」と平仮名で記載するのかは、統一したほうがいいのではないかと思う。